

平成27年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

オリジナル品種による地域一体となった世界に通用するブランド産地作り

○氏名又は名称 新岩手農業協同組合 八幡平花卉生産部会

(代表 高村 敏彦)

○所在地 岩手県八幡平市

○出品財 経営(りんどう)

○受賞理由

・地域の概要

八幡平市は、岩手県北西部に位置し、冬は積雪が多いが、夏は日最低気温が16～18℃で昼夜温の差が10℃程度あり花き栽培に適した気候である。りんどうは昭和40年代に転作作物として導入され、米、ホウレンソウとともに市を代表する農産物となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

新岩手農業協同組合八幡平花卉生産部会は、地域オリジナル品種を活用したりんどうの産地化に取り組み、現在は全国のりんどう栽培面積の約4分の1、出荷数量の約3割を占める産地に成長。部会員数170戸、栽培面積110ha、出荷数量 切り花:2,469万本、鉢花:14万鉢、販売額は平成17年以降、10年連続して10億円以上を達成している。

・受賞者の特色

(1) 生産者と行政が一体となった地域オリジナル品種の育成

現在、切り花30品種、鉢物9品種が実用化されており、品種の開発に当たっては、部会員全員を社員とする(一社)安代りんどう開発(平成16年設立)が、八幡平市花き研究開発センター(平成4年設立)と共同研究契約を締結し、有望系統の特性検定や親株育成のための試験圃場の設置・管理を担うとともに、市と専用利用者権の許諾契約を結び、部会員だけがオリジナル品種を利用できるようにしている。また、生産者が販売額の2%を研究協力費として拠出し、安定した組織運営と生産者の意見を踏まえた品種開発が行われる仕組みを構築している。

(2) 生産者の強固な結束による産地ブランドの確立

系統出荷率90%以上の共販体制による安定した出荷ロットと、全量共同育苗、全ほ場一斉巡回指導、厳しい自主検査による高品質なオリジナル品種の生産、鮮度保持対策の徹底や出荷調整作業の機械化等のコスト削減努力により、「安代りんどう」というブランドを確立し、市場での有利販売につなげている。

(3) 切り花輸出と海外生産、知財輸出

① 平成14年から新たな販路を求め、オランダへの輸出を開始し、平成20年には約65万本を出荷した。その後、輸出量は金融不安の影響等で減少したが、近年は香港、シンガポール、北米など新たな販路を開拓している。また、鉢花品種では、海外と栽培許諾契約を締結し、知的財産の輸出にも取り組んでいる。

② ニュージーランド、チリと栽培契約を締結し、海外生産を行っている。季節が反対の南半球での生産により周年供給が可能となっている(平成24年生産量、54万本)。

・普及性と今後の発展方向

地域一体となった取組、海外展開等はりんどうのみならず他の花き産地の先導的事例になるものである。部会では、販売額15億円を目標に、平成26年に市場投入した赤色品種「恋紅」(こいべに)のような今までのりんどうのイメージを変える品種の開発、新規栽培者の育成、知財輸出を含む新たな輸出国の開拓等を進めており、更なる発展が期待される。